

令和7年6月2日

加西市議会議長 丸岡 弘満 様

議会運営委員長 土本 昌幸

議会運営委員会行政視察報告書

下記のとおり行政視察を実施いたしましたので、報告いたします。

記

1. 日 程 令和7年5月22日（木）
2. 視察先 兵庫県丹波市
3. 参加者 土本昌幸、高橋佐代子、佐伯欣子、下江一将、田井真一、高見博道、
森元清蔵、（議長）丸岡弘満
（議会事務局随行）後藤、玉置
4. 主な視察内容等
（視察時間）13：30～15：30
（視察項目）議会の広報広聴活動について
 - ・ 広報広聴委員会（特別委員会）を設置した背景とその効果
 - ・ 市民との意見交換会について
 - ・ ミライプロジェクトについて（視察対応者）議長 谷水雄一 議機運営委員長 西本嘉宏
議事総務課 豊嶋課長、清水主査

【兵庫県丹波市】

視察項目：議会の広報広聴活動について

[目的]

本市議会では、開かれた議会を標榜し情報公開及び情報発信に努めてきたが、依然として市民の議会活動への関心や理解が深まっているとは言えない状況である。

また、多様化する市民の意見を広く的確に把握して、市政へ反映させるという重要な役割を担っているが、その把握が十分であるとは言いきれないことから、情報発信による広報力の強化、議会への興味関心の向上対策、多様な意見に対する広聴機能の充実などを実施するための体制の構築などが必要であることから、議会広報広聴活動の先進地として評価が高い丹波市議会の取組みについて視察を行ったもの。

[内容]

(1) 市民との意見交換会について

■ 広報広聴委員会(特別委員会)において企画立案し、議会運営委員会に提案。議会運営委員会で承認された後に、議員総会で全議員に周知。

なお、所管は議会運営委員会とし、開催期間や議員の班分けを決定。

■ 開催後は市民の意見を分野別に分類、整理し議会運営委員会に報告。議会運営委員会において意見をそれぞれの所管する委員会に割り振り、各委員会、議員間で協議のうえ、全ての意見の取り扱い結果をホームページで公開。

(2) ミライプロジェクトについて

■ 将来のまちづくりを考えるうえで、若者の声を聴き、主権者意欲や政治への関心を高めるために実施。

なお、所管は議会運営委員会。

■ 議員と大学生、高校生がグループワーク形式で議論。結果を本会議場で発表し、内容について議員が質問を行う形式で実施。

(3) 広報広聴委員会の設置について

■ 議会運営委員会から議会として、より効果的な広報広聴活動が行えるよう調査依頼を受けた議会報編集委員会が「広報広聴事業の在り方に関する調査研究」を行い、平成30年3月に報告書を議会運営委員会に提出。詳細な検討事項は議会改革特別委員会に委ね、最終的な委員会設置方法等は議会運営委員会で検討。

■ 他市議会の視察研修を行い、各事例を参考に丹波市議会にあった方法を検討。当時、すでに常任委員会は3つ存在しており、その常任委員会とは目的が異なることから議会改革特別委員会(H30.4.11)において特別委員会とし、「広報広聴委員会」として決定。

■ 広報広聴委員会の設置により、これまでより効果的な広報広聴活動が行える。また、委員派遣が可能となったことから、委員会活動の幅がこれまでよりも拡大。

■ 広報広聴特別委員会の記録は要点筆記で作成。会議録検索システムでの公開はない。
(広報広聴委員会は作業的なことが多く、全文筆記の特色になじまない)

■ 広報広聴特別委員会の中継はライブ・録画とも配信していない。
(広報広聴委員会は作業的なことが多く、中継になじまない)

〔所感〕 土本 昌幸

【兵庫県丹波市】 議会の広報広聴活動について

丹波市では住民の議会への理解を得るためには、広報広聴活動の充実が重要と考え、視察研修等を行った後に特別委員会として設置している。

特別委員会として設置している理由としては、他の常任委員会と目的が異なるため、最終的には議会運営委員会が内容については承認している。ただ、委員長は副議長が務めると決めてあるため、全ての承認は必要ないと考える。

1. ミライプロジェクトについて

- 1) 議員と大学生、高校生がグループワーク形式で議論を行い、結果を発表する取り組みや高校生が市の将来について執行部側で発表して、その内容について議員が質問する内容についても新たな視点であると考え、内容の評価検討が必要である。
- 2) 市民との意見交換会をベースにして意見交換を行い、担当委員会に分類して執行者に伝達するもの、委員会として調査研究して市への提言・提案につなげる。この内容は参考になり、加西市議会の取り組みとしては設定するテーマが重要であると考え。

2. 市民との意見交換会

全体が2時間で意見交換に75分を配分しているため、テーマ数にもよるが時間的には余裕ができると考える。しかし、夜間の開催では現状から終了時間が30分遅くなるため、参加される市民には影響が考えられるため、検討する必要がある。

〔所感〕 高橋 佐代子

【兵庫県丹波市】 議会の広報広聴活動について

丹波市議会では、開かれた議会を目指して、市民にわかりやすい情報発信を行うとともに、市民と議会のコミュニケーションが充分にとれるよう、広報広聴委員会を立ち上げ、議会だより「たんばりんぐ」を発行。市民との意見交換会やミライプロジェクトの開催など、多くの取り組みをされていた。

これらの取り組みにあたっては、先進自治体を調査研究し、大学との連携を通じて、広報広聴の今を積み上げられた。また、広報広聴は、広報広聴委員会が企画立案し、議会運営委員会が実施決定。議員協議会で報告。議会全体で取り組んでいるが、まだまだ、試行錯誤するなかで、課題等も多く、努力をされていることについて詳しい説明がありました。

この視察から思うのは、これまでの広報広聴の取り組みを振り返り、広報広聴委員会の設置とその役割、あり方、多くの意見の取り扱いなどについて議論を重ね、より市民に開かれた議会、市民から親しみを持っていただく議会に変わる必要があると思った。

議長から諮問されている広報広聴委員会の立ち上げについて大変参考になりました。

〔所感〕 佐伯 欣子

【兵庫県丹波市】議会の広報広聴活動について

①市民との意見交換会について

市民との意見交換会については、加西市同様各地区で開催され、いくつかのテーマをグループワークで話し合い、意見発表をされている。

さらに、5名以上のグループから要請がある場合は、地域出張スタイルの意見交換会も行われている。加西市では、長らく各委員会と各種団体との意見交換会が行われてきたが、改めて各種団体との意見交換会は今後も定期的に行う必要があると感じた。

最後、市民意見を市長に文書で提出され、市からも意見に対する回答をしていただくことまで徹底されているところは、見習うべきである。

②ミライプロジェクトについて

ミライプロジェクトは若者の声を聴く機会を設けようと、令和5年度には議場を使い高校生が作成した提案を発表する等開かれた議会を目指されており、加西市でも取り組んでも良いのではと思う。

③広報広聴委員会(特別委員会)の設置について

広報広聴委員会設置については、事業のあり方に関する調査、研究を1年以上かけてしっかりと取り組まれ実施されている。ただ、現時点での広報広聴業務の詳細を確認すると、スピード感を持って細やかな作業を行うには議員だけでなく、事務局職員もかなりの業務を担っていると感じた。私たちの議会の規模でとなるとどうだろうか。

④議会広報活動について

議会広報活動は、議会だよりの発行が主となる。視察内容で参考にするべきことは取り入れ、加西市議会ならではの広報活動としたいものだと考える。

〔所感〕 下江 一将

【兵庫県丹波市】 議会の広報広聴活動について

丹波市議会の取組を拝見し、「市民との意見交換会」については、町役員への直接の声かけによって参加者が集まっていると伺った。本市でも過去に各中学校区で開催し、町役員への直接の声かけによって参加者が集まっていたと聞いている。現在は議会だよりや公式 X、隣保回覧で広報をしているが、今後町役員に声かけを行わないのであれば、開催場所を各中学校区から集約し、各世代が参加しやすい時間帯を複数設けるなどの工夫が必要だと考える。

また、丹波市議会では「読者モニター会議」が行われており、議会だよりを若い世代に読んでもらえるように意見を聞く機会を設けられていた。これを参考に、本市においても議会だよりや市民との意見交換会を実施するにあたり、市民の意見を聞く機会を設けることは有意義であると考え。さらに、丹波市議会の「井戸端スタイル」のような、市民主催による少人数での対話の場は、政治への主体的関心を高める取り組みとして有効であると感じた。

ミライプロジェクトについても、若者の声を聞こうという姿勢や、18歳からの選挙権を見据えた主権者意識の醸成に向けた取り組みは、加西市においても取り入れたい視点である。特に、意見交換や若者からの提案を市へ届け、それに対して丁寧に返答を行うという姿勢は、市政や議会への信頼につながる重要なポイントだと考える。

また、丹波市議会では広報広聴委員会が議会だよりの発行や意見交換会の企画立案を担い、議会運営委員会と連携して取り組まれている点は、加西市における広報広聴委員会設置の検討にあたって参考になった。本市では議会だより、市民との意見交換会、主権者教育、公式 SNS など、取り組みとその役割は多岐にわたるため、他自治体の事例も踏まえながら、どのような体制で進めることが適切かについて、今後も引き続き研究と議論を重ねていく必要があると感じた。

〔所感〕 田井 真一

【兵庫県丹波市】議会の広報広聴活動について

丹波市議会では、開かれた議会を目指し、わかりやすい情報発信を行うとともに、市民との双方向でのコミュニケーションが効果的にとれるよう、広報広聴委員会（特別委員会）の創設、市議会だより「たんばりんぐ」の発行、市民との意見交換会やミライブプロジェクトの開催など、様々な取組みをされています。

それらの取組みにあたっては、先進自治体の状況を調査研究されるとともに、大学との連携を通じて、今の広報広聴の形をつくり上げておられます。

また、広報広聴は、広報広聴委員会の専権事項ではなく、広報広聴委員会が企画立案し、議会運営委員会が実施決定し、議員総会で報告されるなど、議会全体で取り組んでおられます。

ただ、丹波市議会においても、目指しておられる広報広聴のあるべき姿としてはまだまだ完成形ではなく、試行錯誤する中での課題抽出と改善を重ねながら努力されていることが伺えました。

この度の視察を通じて次の点が特に参考となりました。

これらのことを踏まえ、これまでの広報広聴の取組みを振り返り、広報広聴委員会の設置とその役割、広報広聴のあり方、出された意見の取扱いなどについて議論を重ね、より市民に開かれた議会、市民から理解される議会に変わっていく必要があると改めて感じました。

《特に参考となった事項》

①周到な準備

ミライブプロジェクトでは、「キックオフミーティング」で参加予定者が主体となってアイデアを出し合い、「発表準備」としてインターネットの活用と併せ、対面での意見交換により資料のブラッシュアップを図るなど、事前準備に時間をかけて周到に行っておられる。

②議会活動や行政への反映

市民との意見交換会やミライブプロジェクトでの報告書を議会運営委員会に提出され、出された意見を担当の常任委員会に分類し、委員会では「所管事務調査とするもの」「行政に伝達するもの」「議員間の共有に留めるもの」などに仕分けをされ、議員総会に報告され全議員で内容確認をされている。

③市民主体型の意見交換会の開催

市民との意見交換会では、従来からの「地域出張スタイル」に加えて、市民主体型の「井戸端スタイル」を導入され、より積極的に広く市民の意見を把握しようとしている。

④バージョンアップ

アンケートなどにより意見把握し、事業評価・課題抽出をされるなど、絶えず事業の改善とバージョンアップを図っておられる。

〔所感〕 高見 博道

【兵庫県丹波市】 議会の広報広聴活動について

市民との意見交換会・未来プロジェクト・広報広聴委員会設置・議会報告会活動について

丹波市では、広報広聴委員会で「市民との意見交換会」の開催案を議運に提案してから実施しているとのことであった。開催に当たっての周知方法はチラシを市内公共施設に設置したり議会広報紙「たんぱりんぐ」の紙面を大きく使ったりなど、加西市でももっと広く告知する方法を考えるべきであると感じた。

開かれた議会を目指した取り組み「未来プロジェクト」は市議会と大学生・高校生との取り組みである。若者の声を聴くことで丹波市の将来のまちづくりにつなげていっている。加西市議会でも令和6年度にこども議会を開催したが、引き続き続けていくべきだと感じた。

広報広聴委員会の設置までには時間をかけしっかり調査を行って設置に至ったようだ。委員会では広報紙の発行などの広報業務だけでなく市民との意見交換会や議会報告会なども委員会の業務になっており広聴業務についても担当をしている。加西市でも広報広聴委員会の設置を検討しているがどのようなことについて委員会が担当するかしっかり考える必要があると感じた。

広報紙「たんぱりんぐ」の記事について、大変読みやすく感じた。記事についても、何回かにわたって「議会クイズ」などのように読者に興味をもってもらえるような記事もあり加西市の広報紙でも今後参考にすればいいと感じた。

〔所感〕 森元 清蔵

【兵庫県丹波市】 議会の広報広聴活動について

(1) 市民との意見交換会について

- ・「市民の声を大切に。市への提案につなげます。」として、意見交換会の意見を整理して生かされている取組がすばらしいと思う。

班長が報告書を班長会に提出し、班長会は分野別に整理して担当の委員会に報告。委員会は、4つの分類に整理。①委員会として調査を進める必要があるもの②市長に文書による回答を求める必要のあるもの③市行政への伝達にとどめるもの④内容の確認にとどめるものに分類。委員会で調査・研究して提言・提案までされた事例もあったとのことでした。またこれらの取り組みがホームページや議会だより「たんぼりんぐ」で公表されている。

加西市議会も、出された市民の意見を丁寧に整理して、市政に反映させていくことが必要と思う。

- ・市民主体型（井戸端スタイル）の意見交換会もされているようで、市民の市政への関心の状況を見て、市民からの開催要望を聞いて実施することもいいことだと思う。

(2) 広報広聴委員会の設置について

- ・議会運営委員会から調査依頼を受けて、平成 29 年 5 月から議会報編集委員会が約 1 年かけて、広報広聴事業について調査研究をし、平成 30 年 2 月に最終報告をされている。広報と広聴について、視察やアンケート調査をされ、よく検討されている。

それによって、平成 30 年 12 月に「広報広聴委員会」（特別委員会）として設置され、7 人で運営されている。

加西市議会においては、議会運営委員会で、広報事業と広聴事業の内容の分析し、何をどの組織が担うのかを整理して行く必要がある。そのうえで、広報広聴委員会の必要性、位置づけ、人数構成を決めていくべきと思う。

〔所感〕 丸岡 弘満

【兵庫県丹波市】 議会の広報広聴活動について

全国的にも議会広報広聴活動の先進地として評価が高い丹波市議会の「市民との意見交換会について」「ミライプロジェクトについて」「広報広聴委員会（特別委員会）の設置について」「議会広報活動について」勉強させていただきました。

加西市議会においても市民に開かれた議会であるために、議会基本条例に基づき市政の諸課題についての説明責任を果たすとともに、市民との意見交換を行うことで議会の運営改善と政策立案に活かすことを目的として、年2回以上の議会報告会「市民との意見交換会」を開催しております。昨年より各種団体との意見交換だけでなく、約10年ぶりに地域に出向く丹波市議会と同じ「地域出張スタイル」に戻しました。

しかしながら、開催後は報告書の作成や議員間での反省会だけで完結してしまっており、丹波市議会のように、開催後は市民の声（意見）などを分野別に分類、整理し、その後、議運でそれぞれの委員会に割り振り、割り振られた意見は、各委員会、議員間で討議され、どのように取り扱うかを決定され、最終的に、全ての意見はホームページで公開し、重要なものは議会だよりで公表するなどの対処した結果、市からの回答や政策提言へつながっていることから大変有効なシステムであると思いました。

そして、広報紙「たんばりんぐ」は、加西市議会と同じく年4回の発行となっておりますが、議会閉会後の翌月に発行されるスピード感には驚きました。加西市議会では、通常定例会開催月の翌々月（3月→5月、6月→8月、9月→11月、12月→2月）に「議会だより」を発行し、定例会での議決結果や議案に対する意見、各議員の一般質問等、市議会の活動状況を全戸、市内高校へ配布してお知らせをしていますが、いち早く読者である市民へタイムリーな情報をお知らせするというのはとても大事なことであると思いました。また、親しみやすい紙面づくりを行うために、ターゲットを絞り、フォントも大きく分かりやすく読者視線を大切に編集をされているのを感じとることが出来ました。

限られた時間の中ではありましたが、さらに加西市議会の機能を高めるため、現在の「議会だより編集委員会」に丹波市議会と同じく広聴機能を加えた「広報広聴委員会」へと変えていく必要があることを強く感じました。